

第4回四日市市総合計画策定委員会 会議録

■日時：令和元年6月26日（水）10：00～12：05

■場所：四日市商工会議所 3階大会議室

■出席者：

林良嗣委員（委員長）、種橋潤治委員（副委員長）、甘利正晴委員、荒木栄里子委員、上野尚子委員、尾崎彰委員、岸村吉偉委員、田中幸司委員、田端文音委員、野村愛一郎委員、前田明子委員、水谷重信委員、宮西マリア委員、森寺浩一委員、山下智香委員、渡邊勝幸委員、舘英次委員

■欠席者：

杉浦礼子委員、増沢陽子委員、水谷孝子委員、山原裕美委員

■議事：

1. 次期四日市市総合計画の枠組みについて
2. 次期四日市市総合計画骨子案の検討について
3. その他

1. 次期四日市市総合計画の枠組みについて

- 委員長 ・次期総合計画では、数値指標を取り入れていきたいとの説明があったが、総合計画の推進や市政全体を評価（モニタリング）する指標として、市民の幸せをどう高めたかという指標“四日市版 QoL”のようなものを考えるとよい。
- 委員 H ・全体の体系について、基本構想には4つの将来都市像があり、基本計画には3つの重点的横断戦略プランと、それをもう少しブレイクダウンした分野別基本政策が8つあるという構成になっているが、それぞれの階層ごとに目標を設定していくのか。階層によって目標の捉え方も変わると思うので、事務局の考えを聞かせてほしい。
- 事務局 ・資料2の基本計画に位置付ける分野別基本的政策については、基本政策ごとに数値目標を設定していきたいと考えている。今後、検討を進め、次回の策定委員会でお示ししたい。なお、重点的横断戦略プランに数値目標を設けるかについては検討したい。
- 委員 E ・基本政策レベルでの数値目標は最低限必要だと考えている。基本構想に近いレベルになると、目標を数値で示すことが難しい部分もあるので、本日の議論の内容を受けて検討したい。
- 委員長 ・指標設定に関する考え方は、個人にとってどうかということと、社会にとってどうかということに分かれるなど、視点によって受け止め方や評価が異なる場合もある。個人やその集合体にとってどれくらい成果があるかということは重要だが、政策が市の財政負担によって執行されるものなので、費用と効果、個人と社会全体などバランスを考えなければならない。そうしたことから、重点的横断戦略プランでは主に社会に対する影響度を、分野別基本政策では主に個

人に与える影響を指標に設定し、政策の適正さを把握するようにはどうか。

- ・将来都市像は、一般的な言葉でおとなしい表現となっているが、人目を引くような面白味のある言葉を使わないと、注目して見てくれなくなってしまう。
- 委員 M
- ・将来都市像では‘子育て・教育安心都市’を、重点的横断戦略プランでは、‘子育てするなら四日市プラス’とあるが、あまり派手ではなく、同じことを言っている印象を受けるので、ネーミングを分けたほうがよいのではないか。

2. 次期四日市市総合計画骨子案の検討について

- 委員 R
- ・資料2のp.4について、子どもが生まれてから中学生になるくらいまでは、様々な子育て支援サービスがあるが、高校生や大学生になる頃には経済的な支援が少なくなってしまう。高校や大学に進学するときに、市がサポートしてくれる、大学等で市外に出ていっても、「やっぱり四日市市がよかった」と戻って来てもらえるかもしれない。そういった流れが生まれるよう、トータルでの子育て支援を考えていただきたい。

- ・同じ施策で、‘女性が子育てしやすい’という項目について、大手企業ではワークライフバランスを尊重することへの対応が進んでいくが、市内に数多くある中小企業ではそこまで手が回らず対応が難しいのが現状だと思う。男性も子育てに対する意識を変えてもらわないと、負担が女性ばかりに集まって働く時間も少なくなり、子育てがしんどくなるので、男性が子育てに参画できる社会へと現状を変えていかなければならない。

- 委員 O
- ・前回の委員会での私の意見に応じて、いろいろ検討していただきありがとうございます。p.45の人生100年時代について、市民がいかに健康な状態を保って超高齢化社会に対応していくか記載してある部分は、非常にわかりやすい。また、高齢者に向けては、大きな文字でわかりやすく示していくとよい。

- ・一方で、健康が大事なのももちろんであるが、最終的に人間には死が待っている。四日市で安心して死を迎えることができ、自分の人生の終焉をどのように迎えるかという安心して死に場所が選べる四日市であってほしい。そんな考え方も計画を考える上で根底に持っていただけるとありがたい。そうすることで、もっと選ばれる都市になっていけるとよいと思う。

- 委員 A
- ・p.4については、プログラミングや英語など新しい教育が盛り込まれて素晴らしいと思う反面、格差や個人差が生まれてくることや、基礎が十分できていないまま、先の段階に進めなくなる児童・生徒が出てくることを心配している。平均値として評価すれば成果が上がっていくかもしれないが、学力的にも格差が出てくるのが現実である。
 - ・働き方改革についても、改善できる人と改善できない人がいるのも大きな着目点である。そうした個人差を埋めることについて、何か支援できる方法があるとよい。

- 委員 R ・働き方について、早く帰ることに対する罪悪感が企業の中にはあるなかで、男性も早く帰れる‘雰囲気づくり’が大切である。大企業と比べてワークライフバランスに関する制度の創設が追い付かない中小企業でも環境を変えていく流れをつくるべきである。
- 委員 長 ・例えば、そういった取組を一生懸命やっている企業を褒めるということも大切である。以前はブラック企業と呼ばれていた企業が、子連れで仕事できる環境を作ったことで一変した事例もある。
- 委員 M ・p. 4 に高校生、大学生に関する記載がないという指摘があったが、それに関連して話したい。大学の講義で、四日市市では高校生が大学に進学する時に地元を離れる人が多く、一方で、四日市市の人口は 20 歳代で増えるものの、転入してくるのは、もともと四日市市に住んでいたわけではなく、別の市町から就職・異動等を契機に四日市市を選んでいるという話を聞いた。
- 委員 K ・他の市や他の県から来て四日市市で暮らしてもらうのも良いことだとは思いますが、四日市市で生まれ育った人が四日市市で暮らしてもらえるようなまちづくりをすることも課題なのではないかと感じた。
- 委員 K ・四日市市はものづくりが盛んで、市内には、企業の研究機能が集まっており、研究熱心な方が多い地域ではあるものの、民間企業が求めている学生を輩出できる大学がなく、ニーズとマッチしていない。そのため、四日市市で育って市外・県外の大学等で勉強してきた後、市内企業に就職するといったつながりをつくるのが課題である。
- 委員 長 ・四日市市の良さや暮らしやすさがなかなか伝わらない状況を改善して、住みたいまちというイメージを高めることが必要である。住環境整備や教育レベルの向上、就労機会の確保を続けていくことが重要であり、そうすることで 40・50 代でも四日市市に来て住みたいと思う人は増えてくると思う。
- 委員 長 ・世界に直結するようなプロジェクトがあるといいのではないかと。例えば、姉妹都市であるロングビーチとの交流などをうまく活用して、四日市に居ながらアメリカなどにつながっていることを実感できることがあれば、若者のモチベーションにもなるだろう。
- 委員 T ・オランダが 80 年代に始めたワークシェアリングなどの発想も参考になる。市民はフルタイムで働きたい人ばかりではないし、介護などで時間が限られた人でも働ける環境を提供できれば、四日市市に戻って暮らすことが可能になる。
- 委員 T ・p. 9, 10 に記載のあるように、ホール等の文化施設をつくってくれるのはありがたい。もっとも、ただ箱があればいいということではないので、どのような機能を充実させる必要があるかを考え、きちんと意思を持ってつくってほしい。
- 委員 T ・三浜文化会館の施設運営について、‘使われ始めてまだ数年だから待ってね’と様子見をしているうちに、だんだん使われなくなってしまうことを危惧している。常にスムーズな運営が行われ、市民によく使われる施設となるよう見直

しを図ってほしい。

- ・伝統文化の保存継承について、地元の小学生・中学生に対して体験機会を提供する機会は多いが、継承の担い手となる高校生・大学生世代にもアピールすべきである。
 - ・コーディネーター育成について、いろいろなものを見学してもらう機会は現在でもあるが、文化に十分触れる機会をつくってほしい。
- 委員 K
- ・大学生の地域文化の保全活動への参加という点に関連して、富田地区の鯨船では、地元の参加者が少なくなってきたことから、四日市大学の学生に協力いただいていることをご紹介しておきたい。
- 委員 T
- ・市内にお住まいの外国人の方との文化交流を大事にして、お互いの文化を取り入れることも必要である。
- 委員 K
- ・四日市商工会議所では、ベトナムフェアを年に1回開催して、ベトナムの文化や芸能を市民の皆様に触れてもらう機会を提供している。
- 委員 長
- ・そのような良い取組をやっていることを多くの市民に知ってもらうようにしていけるとよい。
- 委員 Q
- ・p. 57 の多文化共生に関連して、外国人が地域社会のなかで弱者のように扱われているように感じるので、ここの記載内容がふさわしいかを再度検討いただきたい。
 - ・p. 50 の3(2)について、多文化共生は大事ではあるが、行政だけでなく企業を巻き込んで取組を進めていったほうがよい。特に、教育・指導の面で、外国人を雇用する企業にもう少し頑張っていただきたい。その中で、交通マナーについても教えていけるとよい。
- 委員 P
- ・p. 4 のスポーツに関する記載について、小学生・中学生と世代別で取り組むだけでなく、中学生が小学生を指導する、小学生が保育園・幼稚園児に教えるなど、年齢の近い身近な立場から教わると見につきやすく、教育効果が高いのではないかと感じる。例えば、どうやって覚えた、身に着けたかも含めて、‘もっと身近な先生’に教えてもらうことができれば、理解もしやすいのかなと感じた。
 - ・スポーツに関して言うと、学校の部活や授業の体育だけではなく、地域スポーツの推進の観点から、地域の団体との連携などにも取り組んでいくとよい。
 - ・p. 53 の子育て家庭の安心実感倍増プロジェクトについて、市民はこうした経済的な支援を大きく望んでいると思う。このなかで‘東海エリアでトップクラスの充実した体制作り’という表現から‘クラス’という文字を外して、“トップ”を目指してほしいと思う。
 - ・市内ではいろいろなスポーツイベントをやっているが、各地で似たようなイベントがあり、それぞれ主催者が違う。それを一つの大きなイベントにまとめることはできないか。そうすれば、もっと大きな市民の参加が得られて経費も少なく済むのではないかと感じる。
- 委員 D
- ・p. 55 について、背景には労働者の高齢化問題もあるので、AI や IoT の力を使

っていくことはよく分かるが、それだけで全てを解決できるわけではない。産業にとっては‘人’が重要であり、人材育成の視点を大事にしてほしい。

・産業分野について、中小企業支援というのがあるが、四日市の中小企業には、新技術、新商品の開発を担う力がある。大手メーカーだけでなく地域を支えている中小企業の力をどうやって支援していくかを十分検討して、計画に盛り込んでいくべきである。その上で、市全体のトータルバランスを考慮して、すべての市民に幸せになっていただくことを目指していただきたい。

委員 H ・基本構想については、まちづくりの方向を具体的にイメージできるよう文章に書き込んでいくことが大切だと考える。また、基本政策については、具体的な数値目標で進捗状況を評価するという事なので、極力わかりやすい数値目標を考えていただきたい。

委員 L ・住みやすいまちというのは、犯罪のないまちであることと同じだと思う。そうした心配ごとがないまちであれば、安心して市民一人ひとりが活動したくなると思う。p. 39 の防犯について、地域の防犯カメラ設置支援が記載されているが、犯罪抑止力となるのでぜひ進めていただきたい。生活しやすい、地域を守れる四日市市になってほしい。

・交通分野に関しては、これからは、バスとかタクシーなどの個別の移動手段で考えるのではなく、どこに行きたいかをスマホで検索して探し出す時代へと変化を迎えている。各地で様々な実験もしているし、四日市市でも自動運転の動きが出ているので、モビリティサービスとして全体で考えるべきである。市民が交通移動手段として、鉄道、バス、タクシーなどいろんな交通手段をリンクした形で利用し、しかもスマホで決済できるようになれば、市民がストレスなく移動できるようになる。

委員 G ・子育てや介護の負担が家族にのしかかるなかで、子育てや介護サービスの提供が昼間に限られていることが課題だと思っている。電車の乗務員のように早朝や深夜に仕事をする人もあるなか、朝の時間帯や夜間であっても安心して仕事ができる環境を整えていけるとよい。

・外国人の労働者も増えているので、外国人向けの保育や介護のサービスも求められる。働く人の周りの支援をすることによって、働く人材の確保につながるなどの好循環が生まれてくると思う。

・防災については地震への対策がメインになっているが、新型インフルエンザなどの感染症の蔓延防止など、防疫に関する項目も入れていただきたい。

・渡邊委員の意見に同感で、子どもの中で年代を超えた指導はすごく重要だと思う。社会に出たら、同世代以外での交流が当たり前になっているので、教育の中で慣れさせていくことが重要だと思う。

委員 B ・今の若い人について、例えば、私の義理の息子は率先して子どものおむつも変えるし、子どもをお風呂にも入れる。時代は変化し、進んでいると思う。時々訪問する企業でも女性の管理職が増えているし、女性の方が遅く残って仕事を

している印象がある。

- ・防災関係では、まず人材の養成と教育が重要である。四日市市には高校がたくさんあるが、地学の授業が受けられるところがなく、自然災害等を考えるのに必要な地学を学ぶ機会が減ってきている。県内では、津高校と松阪高校でしか地学の学科はない。大学入試に特化するためなのかも知れないが、これが北勢地域の高等学校の現状である。
- ・地域社会では、若くて60歳代中盤、地域によっては80歳代が主になって防災や自治会を支えている。今までは60歳で定年退職した後、地域に貢献しようという流れがあったが、定年が延長されることで、地域社会に参加してもらえ年代が遅くなっている。どのように地域を支えていくか、人材のあり方を含めて考えないと、あと10～15年くらいで地域社会のシステムが崩壊してしまいかねないので、そのような分野を強化していただきたい。

- 委員 N
- ・自治会を担当している立場からすると、p.30にある防災力を高める活動がかなり細かく記載されている。市もハード面については、ある程度災害への備えが進んできたが、災害発生時にどうなるかという点では、ハザードマップの作成などで認知が進んできたものの、周知の面では途中段階であると思う。
 - ・津波の危険や河川の氾濫について、「危ないものは危ないですよ」という情報を発信するようになってきた。その中で、我々はどうすべきか、自分の命を自分で守るための手段をよく考えなければならない。そのため、自分の住んでいる場所について、木造建物の密集度合、河川の氾濫リスク、海拔などを地域ぐるみで、それぞれの特性マップに落とし込んで準備することが重要である。
 - ・三重県の広域防災拠点が四日市大学周辺に設けられたが、有事の際に、どのようにそこを利用するかという運用は明確にされていない。県と四日市市が連携し、地域の防災拠点としての機能を果たせるよう努めていただきたい。

- 委員 長
- ・広域での災害の場合、県市で分かれて対応できるものではない。非常に重要なこととして、防災についてはしっかり検討していかなければいけないと思う。

- 委員 F
- ・p.45 健康福祉の内容について、在宅医療と介護や人生の最終段階などを見て、少し寂しく、暗い印象を受けた。タイトルは‘幸せワクワク’となっているが、行政の視点でまとめたサービスの提供が中心で、高齢者がサービスの受け身として記載されており、内容が偏りすぎではないかと思う。
 - ・基本的な考え方として、ないものを補うだけでなく、行政があるもののつながりを生かすということで、視点を変えて‘わくわくするような’内容にしていきたい。例えば、生涯現役として、介護の場や地域活動だけでなく、雇用などの活躍の場が与えられることなど、高齢者の自負心を大事にした施策を検討してほしい。
 - ・先ほど出た、‘トップクラス’の話だが、四日市で‘日本一のもの’を入れていくと夢がある。どの分野でのよいので、真剣に日本一を探したい・増やしたいという気持ちで夢のある政策を盛り込んでほしい。そうすれば、市民も夢が

膨らむのではないか。

- 委員 K
- ・ p. 15 の企業・事業誘致・投資促進について、企業誘致を進めるためには、新たな産業用地がなければ実現できないので、ぜひ行っていただきたい。
 - ・ p. 16 で中小企業の支援について、企業の競争力支援だけでなく、事業承継に対する支援などの後継者育成なども入れていただきたい。
 - ・ 誰もが働きやすいための環境整備について、障害者、女性に加えてシニア活用も入れていただきたい。また、定年退職された方やこれからの働き方を工夫していきたい方々に対して就労機会を提供することを考えていただきたい。
- 委員 R
- ・ p. 4 の新教育プログラムのなかで、1～6 番のうち、5, 6 番の‘四日市の子ども’をテーマに取り組む部分は重要だと思う。さらにその中でも人権については、小さい時から学んでいなければ大人になってもずっと入ってこない。子どもは体験することでどんどん学んでいくので、その辺りを充実していただきたい。
 - ・ 一方で、このプログラムを親としてみたときに、自分の子どもがきちんとできるかが不安になる側面もあるので、もう少しやわらかな表現ができるといいと思う。
 - ・ p. 40 の人権については、大人になってからも多様性を受入れることができると思う。四日市には学びの素材があるので、しっかりと取り組んでほしい。
- 委員 A
- ・ 人権については、多岐にわたって取り組んでいるものの、広く知られていない現状がある。各機関がバラバラで取り組んでいて、互いの動きを知らないこともあるので、難しいとは思いますが、つなげていけるとよい。
 - ・ 学童保育所を小学校区に一つ作ることを目指して数を増やしてきたが、一方では、学童待機児童を無くすために、他校区にタクシーを使って送迎している現状がある。いろんな分野の方が集まり、話し合う場があれば、それらをうまくマッチングしていくことができると思うので、そのような機能を発揮できる仕組みを作ってほしい。
- 委員 長
- ・ 様々な分野の人が集まって話し合う機会はなかなかないので、皆さんと一緒にどんな課題でも解決できるのではないかと思った。
- 委員 E
- ・ 今日いただいた意見は、各部署で共有し、反映できるよう検討を進めていきたいと思う。様々な分野で横のつながりという話があったが、企業とともに行政が進めていく必要がある。どうつなげ、連携していくかを考え、職員の資質の向上とともに取り組んでいかなければいけないと感じた。
 - ・ 本日、言い足りなかったご意見等は、意見シートに書いていただきたい。

3 その他

- ・ 次回委員会を 8/27(火) 13 : 30～15 : 30 で開催。

以上